



2019.10.4
第170号

産官学民との連携教育



西会津町教育委員会

教育長 江添 信城

豊かな自然と文化、そして何より人情味にあふれる会津に、縁あって昨年四月よりお世話になっていきます。仕の掟の教育精神が流れる会津の教育に携われることに、喜びを感じながら充実した日々を過ごしています。

西会津町のことを知るにつけ、地域の教育力の高さに驚き、多くのことを教えていただく毎日です。西会津町は、平成二十九年度より県から地域学校協働本部事業のモデル地区の指定を受け、「地域に開かれた学校」を掲げて取り組んでいます。その実践が評価され、昨年度文部科

学大臣表彰を頂きました。現在は、コミュニケーション・スクール導入に向けて準備を進めているところです。

私は西会津町の教育改革に、この地域の教育力の活用と併せ、産官学民との連携した教育の必要性を実感しています。社会はグローバル化やAI等の進歩により、急速に変化しています。

これまでの学校の力だけでなく、外の力を活用した教育が求められています。また、教員の働き方改革を模索する上でも、産官学民の連携は欠かすことはできません。そこで、まず地元の西

発行

村会 支会 支会
町議 支会 支会
市協 津支 支
県委 麻沼
島教 北耶両
連絡 会

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

会津工業会には、次年度から始まる小学校のプログラミング教育の支援として人型ロボットのパピー三台を寄贈いただき、地元のキノコ栽培に携わる大手ソフト会社には、プログラミング教室の開催をお願いしてきました。また、文部科学省との連携や他省庁の補助金を活用してのタブレット導入を進めています。さらに、会津大学と町とが連携協定を結び、最先端技術に触れる機会を得ることができま

きます。これからの予測困難な時代、西会津町の自然や歴史、文化（不易）と産官学民による新しい学びの力（流行）とを融合した教育を推進していくことが重要となります。そのために、産官学民との連携を強化し、様々な体験活動を通して、学力と共に非認知能力の向上に、尽力していく所存です。

小・中・高の連携で育む「会津の教育」

6月26日（水）の公立学校長研修会において、「校種間の連携を生かした人間力に満ちた人材の育成」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。前会津高等学校長の山内正之氏をコーディネータに、企業からは羅羅屋の安東裕子社長、マナックビジネス（会津エンジン主宰者）の眞部正美社長、教育関係者として、西会津町教育委員会の江添信城教育長、喜多方一小的佐川正人校長の計4名がパネリストとなり、「会津の子ども達をどう育てるべきか」について熱く意見が交わされました。経営理念をはじめ豊富な経験に基づいた説得力のある話は、学校経営に多くの知見が得られる有意義なものであったと多くの参加者から好評を得ることができました。

なお、「会津の教育」について、右のような点がクローズアップされました。今後はこれらを踏まえ、各学校ごとに実践し、年度内に成果と課題を集約する予定です。



〈良いところ・誇れること〉

- ◎素直、実直
- ◎会津の歴史・文化・自然

〈さらに努力・工夫が必要なこと〉

- 人間性、社会性などの非認知能力の育成
- 自己肯定感の高揚（褒め、認め、励ますことの重視）
- ふるさとを愛する心の育成
- 地域人材の積極的な活用（地域と共にある学校づくりの推進）

あなたの参加を待っている!

ステップアップセミナー「Aizu」



目的

子ども自身の変容や学びを実感させ、学ぶことの充実感、達成感などを味わわせることを目指すために、困り感を持つ教師を対象にステップアップセミナー「Aizu」を開催することで、教師の指導の方法やスキルを身に付け、授業力や学級経営力の向上を図ります。

〔参加対象者・人数〕

- 域内の小・中学校の教職員（希望者）
- 各会（各セミナー）、若干名～20名程度

〔期間・日程〕

- 令和元年9月～令和2年2月
- 15:30～17:00 ※10:30～12:00（冬季休業）

〔講師〕

- 会津教育事務所職員

〔会場〕

- 会津若松合同庁舎会議室
- 協力できる小・中学校

〔内容〕

- ① 小学校プログラミング教育の指導方法
- ② 新たな不登校を生まない支援について
- ③ 中学校英語の表現力向上のポイント
- ④ 学級づくりのポイント
- ⑤ 算数・数学科でのコーディネートのポイント
- ⑥ 自立活動の授業づくり
- ⑦ 小学校外国語活動・外国語科の授業づくり
- ⑧ 理科の授業における導入のポイント
- ⑨ 支援を要する子どもへの接し方



主催：会津教育事務所

※詳細は実施案内参照

令和元年度 会津教育事務所指導の重点（後期）

授業の質的向上

〔「ねらい」と「まとめ」の整合性〕

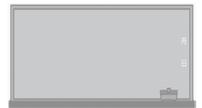
〈ねらいを明確にする〉

- 子どもの学習履歴やつまずきの原因を把握する。
- 単元全体や本時に身に付けさせたい力を明確にする。
- 本時のねらいが達成された具体的な子どもの姿をイメージする。
- 子どもが意欲を持ち、明確に意識できるめあてにする。

〈まとめ・振り返りを工夫する〉

- 自分の言葉でまとめる時間を確保する。（学習内容、学習方法、新たな学び）
- 「まとめ」を「めあて」と正対する内容にする。
- 学習した知識・技能を活用する活動を設定する。（適用問題等への取組）
- 振り返る視点を子どもに示す。

- 本時に身に付けさせたいことをまとめているか。
- ねらいに合った適用問題等に取り組んでいるか。
- ねらいとまとめの観点別評価がずれていないか。
- 子どもの意見や発表を生かす板書になっているか。
- 比較・検討、関連、統合を意識した板書になっているか。



「分かった」「できた」が実感できる授業づくり

全国学力・学習状況調査の活用

- 調査問題に教職員全員で取り組み、今求められている力を理解する。

問題を1問程度に絞り、現職教育の中で15分程度の「ミニ研修会」を実施する。

- ①問題を解く。（5分）
- ②その問題が求めている授業改善のメッセージについて話し合う。（5分）
- ③解説書や報告書で確認する。（5分）

- 調査の分析結果を基に、授業改善を図る。
- 調査問題（過去問を含む）を授業等で活用する。

家庭学習の充実

- 授業で学習した内容の定着や活用を図るための家庭学習について指導する。
- 家庭学習の内容を導入段階で取り上げ、家庭学習と本時のつながりを意識する。
- 定着確認シートを活用する。



安心感のある学級づくり

★落ち着いた学級については、学校課題として全職員が関わる体制をつくる。

〈不登校対策〉

（1）未然防止

- 困っている子どもをチームで支援する。
- 子どものよいところを積極的にほめる。
- 全員の子どもに声をかける。（1日1回）
- 子どもの小さな頑張りを保護者に伝える。
- 新たな目標を持たせる。（目標の再確認）

（2）初期対応

- 不登校兆候が見られたら、すぐに本人・保護者に様子を聞く。
 - ・遅刻、早退が多くなってきた。
 - ・保健室に行くことが多い。
 - ・一人であることが多い。

〈特別活動〉

- 一人一人に役割を持たせ、認め、称賛する。
- 係活動や委員会活動等で、自発的・自主的な活動を大事にする。
- 子ども同士でよいところを認め合う機会をつくる。

〈道徳教育〉

- “本音”で議論させるよう工夫する。
- 読み取りから脱却し、自分のこととして考える授業を実践する。
- 他者の意見を基に、様々な視点から考える場を設定する。

〈いじめの防止〉

- 早期発見、早期解決に努める。（積極的ないじめの認知）
- 教職員が連携し合って、様々な立場から子どもを見守る。（学級担任、教科担任、学年主任、養護教諭、部活動顧問等）
- 認知0から見逃し0へ

※ ■は、後期に新たに加えた内容

学校は変えられる！(先進的な取組紹介)

◀01 会津美里町立本郷中学校における働き方改革 ～当たり前からの脱却～

本郷中学校では、「長時間働く熱心な教職員」「前例踏襲」など、これまでの学校にありがちだった慣例を見直し、「限られた時間の中で効率良く仕事を進める」を大切にしながら、次のような取組を行っています。

1 出勤時に退勤予定時刻を自己申告

朝のうちに、退勤予定時刻に自分のネームプレートを貼り(右写真参照)、仕事の見通しを持ちます。

2 週1回の生徒一斉下校日を設定

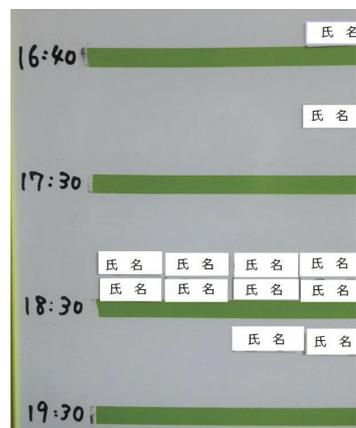
一斉下校日は、18時までの施錠を目指します。

3 年休・最終退勤時刻の年間数値目標を設定

- (1) 年間、16日以上(の)年休取得(授業日でも計画的に取得)
- (2) 年間、150日以上、19時30分までの施錠

4 夏季休業中の「ゆう活(夏の朝型勤務)」の推進

会津美里町では、今年度の夏季休業から試行されており、駅伝の朝練習などを勤務時間内に実施しています。



◀02 タテ持ちによる数学科の授業 ～会津美里町立高田中学校～

高田中学校では、3名の教員が全学年を担当するタテ持ちで数学科の授業を行っています。生徒が自分自身でコースを選ぶことにより、今まで以上に自主的に学習しようとする意欲が高まっています。

また、自分のペースで学習(学習習慣を確立)することで、「わかったこと」、「わからないところ」などがはっきりし、復習に役立てることができています。

- 1・2学年…1章はクラス毎で授業を行い、2章から『コース別学習』を実施
- 3学年……1年間、全クラスを3つに分けた『コース別学習』を実施

文珠コース

基礎的・基本的な内容を自分で身に付けることを目標に学習する。教科書の「例題」、「たしかめ」を中心に丁寧に学習する。

御田コース

基礎的・基本的な内容を学習しながら、少しずつ応用・発展的な学習も行う。教科書の「たしかめ」を確認し、「問題」、「数学の学習」を進める。

伊佐須美コース

応用・発展的な内容を少し多めに学習する。教科書の「たしかめ・問題」を確認し、「数学の学習」や発展問題に取り組む。

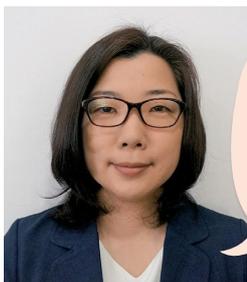
授業の基本的な流れ

- ① 全体でのガイダンス及びアンケート実施
 - ↓ *次回授業の前日の(朝)帰りの短学活で、コースを発表する。
 - ② 各コースに分かれて授業開始
 - ↑↓ *1,2回目までは先生と相談後コースを変える場合がある。
 - ③ 各コース一斉に単元テスト・次の単元に向けてアンケート実施
 - *次の時間までに新しいコース名簿を発表する。
- ②～③の繰り返し



◀03 学校を地域みんなで支える北塩原村 ～「学校の応援団」事業の取組～

北塩原村では、地域が学校を支援する「学校の応援団」事業を行っています。地域の人々が個々の特性を活かして学校の教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用の機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図っています。ボランティアの活動は無償ですが、子どもたちから元気をもらえるのが何よりの喜びです。“できることを・できるときに・できるところから”を合い言葉に、共に学び、遊び、活動することを通してコミュニケーションの輪が地域全体に広がっています。



今年度で9年目の活動です。文化や歴史などの“地域の宝”が共有でき、ボランティアの輪も広がり大事な活動になっています。

地域コーディネーター 酒井 美代子 氏



幼稚園での学校支援 「こめこめらクラブ」田植えの様子



小学校での学校支援 読み聞かせの様子